

日本史 I

社会科教育講座・川岡勉

1. 授業の概要

この授業の目的は、社会科における基本的な教養として、日本史（前近代）における主要なテーマを取り上げて考察し、日本社会の特質を理解するところにある。

到達目標として掲げたのは、(1)日本における国家と社会の歴史に関する基礎的な知識を獲得する、(2)日本史を中国や朝鮮など東アジア世界との関わりにおいて捉える視点を獲得する、(3)日本の国家と社会の歴史を踏まえて、これからの社会のあり方や改革の方向について、自分の考えをまとめ論述する力を身につける、の3項目である。

関連するDPは、教育に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している（知識・理解）、である。

学校教育教員養成課程の初等教育コース（小学校サブコース）の学生22名（2年生）、同課程の中等教育コースの学生7名（2年生）、総合人間形成課程人間社会デザインコースの学生1名（4年生）、学校教育教員養成課程学校教育基礎コースの学生1名（4年生）、同課程の学校教育実践コースの学生1名（4年生）の合計32名の学生が受講した。

授業で取り上げたテーマは、概ね例年通りであった。

2. 授業時間外学習の促進

授業の進め方としては、あらかじめ次回のテーマについて調べてきてペーパーにまとめさせておき、授業ではそれを読み上げさせながら、授業者が解説を加える形をとった。毎回の授業で提出させたペーパーと、最終試験をもとに成績評価を行った。

3. アンケート結果

最後の授業時に授業評価アンケートをとり、30名の学生から回答を得た。

まず、この授業は教員にふさわしい資質を育てる上で役にたつと思うかを問うたところ、20名が「とてもそう思う」（前年度14名）、10名が「ややそう思う」（前年度13名）と回答

し、前年度よりも「とてもそう思う」が増えた。そう判断した理由として、「自分で考え、それを全体で共有する。一人一人が授業に参加できるものとなり、主体的な学びができる、そのような授業設計が知れた」「暗記教科と思われがちな社会科の授業の中にどのように“考える”という活動を取り入れられるのか分かった」などの意見が寄せられた。自分はこの授業に意欲的・積極的に取り組んだと思うかを問うたところ、「とてもそう思う」が14名（前年度13名）、「ややそう思う」が16名（前年度13名）、「あまり思わない」が0名（前年度1名）という結果であった。授業の目的・到達目標に照らした達成度を問うたところ、非常に達成できた、85%達成という回答がある一方、あまり達成できていない、達成度は7割・5割などばらつきがある。授業の改善すべき点を問うたところ、板書に系統性を持たせて欲しい、もう少しレジュメのようなものがあれば助かるという意見があったほか、グループワークが増えたらよいという声もあった。

4. 総括

各時間のテーマについてあらかじめ調べて授業に臨ませる形態は、学生を授業に主体的に取り組ませる上で効果を挙げたと考える。学生は各自が調べた史実を全体で共有することにより、様々な視点から歴史を捉えることができたと書いている。内容を掘り下げていくのに毎回苦労したが、それが教員として授業を作る上で生きてくるのかなと思ったと書いた学生もいる。授業者は様々な資料やデータを提示して歴史の流れを説明することで、暗記教科というイメージを払拭するように努めた。高校時代に日本史をほとんど受講していない学生には難しかったようであるが、楽しい授業だったと書いた学生も複数おり、おおむね肯定的に受け入れたとみてよいと思われる。学生の調べ学習をさらに充実させ、それを授業にどう活かすべきか、今後とも検討していきたい。